

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

(－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (甲信越)	◎	商店街（代表者）	販売量の動き	・ 今月は特別なことはなかった。
	◎	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・ 土用の丑の日、夏祭り、法要、接待等も増え、料理の金額を客の方から上げてくれている。
	◎	遊園地（職員）	来客数の動き	・ インバウンドの団体での食事利用の増加のほか、子供向けの水や雪での遊び場等、暑い季節ならではの施策展開により、好調な推移がみられる。
	◎	その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	お客様の様子	・ 今月は戸建て住宅の遺品整理の依頼が多かった。また、葬儀の搬送は夜中の依頼がほとんどである。
	○	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・ とにかく猛暑のため、冷たい商材が売れており、店としてはややプラスの方向に向かっている。
	○	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・ 買上点数が増加した状態で、夏休みに突入したので、やや良くなっている。
	○	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・ 気温が高いため、飲料や冷凍商材の売行きは良い。3か月前と比べれば売上は増えている。
	○	自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・ 連日の猛暑もあり、車のエアコンガス点検等を中心にメンテナンスでの来店が多く、来客数、客単価共に伸びている。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・ 7月は毎年恒例の屋上ビヤガーデンを開催している。前年よりも値上げをしたが、来客数は1割増えている。消費者は、値上げに関して理解ができている。
	□	一般小売店〔家電〕（経営者）	来客数の動き	・ 猛暑が続く、エアコンの購入件数は増えている。ただし、単価の低い物が多く売上の増加には結び付かない。どんなに出費を控えても、必要なことや必要な物への出費はどうにもならない様子がうかがえる。
	□	百貨店（経理担当）	お客様の様子	・ 夏のクリアランスセール開始が6月から7月になったことで、ファッション関連は前年実績を大幅にクリアできたが、物価上昇と米の価格高騰、参議院選挙、猛暑の影響等で、客足が伸びていない。この流れは3か月前と余り変わらない。
	□	スーパー（経営者）	来客数の動き	・ 空梅雨や猛暑の影響で夏物商材は好調である。
	□	スーパー（経営者）	来客数の動き	・ 前年比では売上は21%増加、来客数は4%増加となっている。4月から新しく病院に配達する仕事が増え、売上が順調に上がっている。また、近隣の大形スーパーが閉店し、その地区の仕事も当社に回ってきている。
	□	スーパー（副店長）	お客様の様子	・ 景気が良いと、もう何年も実感したことがない。せめて現状維持を希望するが、多くの商材で価格が上昇しており、本当に生活が大変である。以前のような働き方改革も、すっかり昔の話で、朝から晩まで働き詰めである。
	□	コンビニ（店長）	お客様の様子	・ 今月に関しては、気温が高い状態で推移したので、水物、アイスクリーム等、冷たい商材がかなり売れたが、固形物が今一つ売れなかった。そのため、大きく売上が上がったということもなく、前年と比べてもそれほど変わらない。
	□	家電量販店（店長）	来客数の動き	・ 猛暑のため、来客数が前年割れとなっている。
	□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・ 新型車イベントを年末に控えていることもあり、新車受注が落ち込んでいる。
	□	乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・ 車検入庫はほぼ例年並みだが、この異常な暑さの影響を受けた修理の入庫が多い。ただし、これは季節要因であり、景気には直結していない。車両販売は物価高の影響等、様々な要因により低迷している。

	□	その他専門店 〔酒〕（店長）	来客数の動き	・3か月前と比べて暑さは変化しているが、商材価格の上昇分を考えると、客の購入頻度は下がっている。ただし、酒の単価が上がったことで、売上は前年より増えており、その辺りが通年の動きとは異なっている。マインド的には変わらないか、やや下がっているものの、実際の売上はあるという状況である。
	□	一般レストラン （経営者）	単価の動き	・相変わらず、物価の上昇分を価格や単価に反映できていない。飲食店では、客の会費に変化がない。
	□	観光型旅館（経営者）	販売量の動き	・今年も7月から猛暑が続いているため、首都圏から清涼な当地へ避暑をかねて旅行を計画している客が多くみられる。バブル以降、旅館の供給過剰により30年間単価を上げられない厳しい状況が続いていたが、最近の物価高と宿泊需要の回復に合わせて、適正価格まで単価を上げられている。このため、地元客は単価上昇で激減しているが、それ以上に首都圏からの客が増えており、以前よりも良い状態が継続している。
	□	都市型ホテル （スタッフ）	来客数の動き	・数か月前から、来客数の落ち込みが続いていたが、下げ止まったようである。上がり始めているとまではいかないが、若干改善の兆しもみられる。
	□	旅行代理店（副支店長）	お客様の様子	・受注が減少している。また、個人旅行では物価高や旅行代金の値上げにより、客足が鈍くなっている。団体旅行も同様で、安近短に変更されている。
	□	通信会社（社員）	販売量の動き	・ここ数か月の流れではあるが、良くも悪くも停滞気味である。特段、新規契約が鈍っているわけでも解約が増えているわけでもない。
	□	観光名所（職員）	お客様の様子	・来客数、売上は若干伸びているものの、利益が伴わない。
	□	ゴルフ場（副支配人）	単価の動き	・以前と比べて、高額な食事メニューやアルコールのオーダーの減少等、客単価を伸ばす要因に減退がみられる。
	▲	商店街（代表者）	来客数の動き	・6月から続く異常気象による連日の猛暑で、日中の客足が非常に少ない。
	▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・地域によっては、来客数の減少がみられる。
	▲	スナック（経営者）	来客数の動き	・今月は良くない。特に、ランチが落ち込んでいるので、暑すぎるせいだと考えている。暑い日は、ざるそばや冷やし中華を食べたいはずである。夜もじわじわと落ち込んでいる。自転車の飲酒運転の厳罰化の影響である。自転車で来ていた客が割といたのだが、すっかり来なくなっている。
	▲	タクシー運転手	販売量の動き	・前月までは悪くても前年比80%から90%近くで推移していたが、今月は80%を下回りそうである。
	▲	その他レジャー施設〔ボウリング場〕（経営者）	来客数の動き	・月前半は夏休み前のため、来客数は多くなかったが、後半は少し動きが出てきている。団体利用は好調である。
	▲	設計事務所（経営者）	競争相手の様子	・県内では廃業する同業者が増えてきている。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・この猛暑が更に来店動機の邪魔をしている。日中の暑さは外出意欲を低下させ、通りには人影が全くない。
	×	スーパー（店長）	単価の動き	・物価高で客単価は好調だが、客の動向でみると、備蓄米への問合せ、セール日にまとめ買いをする傾向は続いており、財布のひもは固い。
	×	コンビニ（経営者）	お客様の様子	・物価高の影響で悪くなっている。
	×	ゴルフ場（経営者）	それ以外	・価格に敏感になっている。
企業動向 関連 (甲信越)	◎	—	—	—
	○	＊	＊	＊
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・引き続き、特注品の受注対応で多忙である。
	□	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・工事の受注量は増えてきており、工事単価も徐々に上がっている。

	□	金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・日本で災害があるとの噂により、観光業のインバウンド効果は一時的に停滞している。また、物価の高騰が止まらず、国内消費は低迷している。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・取引先でも受注が減少しており、先行きが見えない。少しでも効率が良くなるよう生産調整をしているとのことである。
	▲	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・暑さや天候不順も影響して、催事を行っても、前月と比べて来店客が1～2割ほど減少しており、販売量も落ち込み始めている。小売店の中で売れている店はごく僅かで、売上不振から店舗を縮小する動きも出ている。
	▲	金融業（調査担当）	取引先の様子	・製造業では、米国の関税率引上げ前の駆け込み需要が一部でみられたものの、総じて受注は低調である。非製造業は観光関連が順調ながら、消費関連は物価高に伴う節約志向の高まりによって、鈍化の動きがみられる。
	×	食料品製造業（営業統括）	取引先の様子	・1か月以上続いている猛暑の影響で、業務筋からの注文が大幅に減少している。
雇用 関連 (甲信越)	◎	—	—	—
	○	—	—	—
	□	人材派遣会社（営業担当）	それ以外	・毎度のことだが、駅前等でも買物客がまばらで、景気が良くなる兆しがまるでない。最低賃金の上昇がどのように影響するのか懸念材料である。
	□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数、新規求職者数共に、前年同月比でみるとほぼ横ばいである。一部に米国の関税政策の影響から求人を控える動きがみられる。
	□	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・米国の関税政策とその影響については見通せない状況が続いていることから、積極的な人材確保には慎重な姿勢が続いている。物価の上昇や処遇改善等のための人件費の確保といった点からも、厳しい状況は続いている。
	▲	職業安定所（職員）	求人数の動き	・当所管内の6月の有効求人倍率は、1.17倍となり前年同月比で0.10ポイントの下降となっている。月間有効求人数が前年同月を下回るのは14か月連続となっている。
	▲	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・現場の技能求人については、若干減っているものの旺盛だが、開発や管理系の求人は減っている。
	×	—	—	—